



せいかつ

子ども

教えてドクター

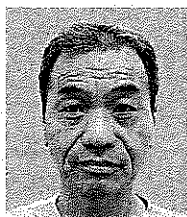
おかもら 岡村 けんじ
健司さん 整形外科

羊ヶ丘病院理事長(札幌市厚別区)

Q ある日、右肩に眠れないほどの激痛が走り、腕が上がらなくなりました。整形外科で石灰沈着性腱板炎と診断され注射と内服薬とリハビリで、痛みは治まり肩も動かせるようになりました。あの痛みはもう嫌です。再発しない予防策はないでしょうか。

(53歳女性)

肩の石灰沈着性腱板炎



らなくなることもしばしばあります。

石灰は、エックス線検査をすると、肩峰(肩の屋根の骨)の下に白い塊として映ります。原因は、肩を使うことで腱板に傷がつき、修復する過程で腱板に石灰が付着すると言われます。

治療は、痛みの強い急性期には、肩峰下滑液包(腱板の上にある袋)にステロイド注射をします。2週間の間隔で4〜5回注射し、

合わせて消炎鎮痛剤を服用していたら、症状が落ち着く場合が多いです。肩の動きが悪くなれば、痛みが落ち着いてからリハビリを行います。ほとんどの患者さんは、このような外来での治療でよくなります。ご質問の方が心配しているような強い痛みの再発はまれです。症状が落ち着いていけば、石灰を手術で切除する必要はありません。ただし、注射や飲み薬、リハビリなどの外来治療を2〜3カ月間行っても痛みが消えず、日常生活に支障が

ある場合には、根本的な治療の手術が必要になります。手術は、内視鏡で腱板に付着した石灰を切除します。肩峰の下に張り出した骨(骨棘)も切除し腱板がこすれないようにします。ご質問の方は、今は症状が落ち着いているようですので、肩を使いすぎないようにし、リハビリの様子を見るのがよいと思います。

この欄への質問や、取り上げてほしいテーマを募集しています。住所、氏名、年齢、職業、電話番号(紙面では匿名とします)を添え、郵便かファクス、電子メールで生活部へお寄せください。ただし、すべての投稿にお答えできるわけではありません。

A 肩の石灰沈着性腱板炎は、肩関節の周囲の腱である腱板に石灰が付着する病気です。突然の肩の強い痛みで発症することがよくあります。痛みは激烈で、黙っていてもズキズキと痛み、手が全く上が